

活力ある安心社会をめざして

福祉経済社会の創造

栗林 世 (連合総研所長・中央大学経済学部教授)	桑原 靖夫 (連合総研主任研究員)
永田 有 (連合総研主任研究員)	大崎眞一郎 (連合総研主任研究員)
梶本 純 (連合総研副所長)	
吉川 薫 (白鷗大学経営学部教授)	
田口 博之 (連合総研主任研究員)	鈴木不二一 (連合総研主幹研究員)
井上 定彦 (島根県立大学総合政策学部教授)	
原嶋 耐治 (連合総研研究員)	藤井 宏一 (連合総研主任研究員)
中尾 和彦 (連合総研研究員)	青木 誠 (連合総研研究員)
溝口慎一郎 (連合総研研究員)	

本書の構成

第Ⅰ部では、「よい社会」としての理念である「福祉経済社会」について述べたあと、現代日本の直面する課題に対する戦略を短期、中期、長期にわたる総合政策として理論的に整理し、新たに提起した。

第Ⅱ部は、そのような第Ⅰ部の政策プログラムの個別課題について、これまでの研究に携わってきた研究員を中心に考察したものである。課題の性格上、細部にわたり全員の合意を得ることは困難であり、各著者の個人論文としての性格を有していることを確認しておく。

目次

第Ⅰ部	よりよい社会への戦略
第1章	福祉経済社会とは何か
第2章	福祉経済社会の実現に向けて
第3章	戦後日本の経済社会の推移と現状
第Ⅱ部	経済社会システム改革の諸課題
第1章	労働を中心とする経済の見方
第2章	就業形態の多様化と女性の社会参加
第3章	経済と社会保障のあり方に関する一考察 一年金制度を中心として
第4章	医療・医療保険の現状と課題
第5章	情報技術革新 (IT 革命) の本質 ー生活・労働環境へのインパクトと政策
第6章	21世紀の環境政策
第7章	多国籍企業と労働組合のチャレンジ
第8章	グローバル化の中の労使関係の変容と21世紀の課題